

## 第6学年 音楽科学習指導案

場 所 3階音楽室  
児 童 6年3組 32名  
指導者 木村 純子

### 1 題材名 いろいろな音のひびきを味わおう

### 2 題材のねらい

本題材は、学習指導要領の内容A表現(2)イ「楽曲の気分を感じ取り、思いをもって演奏すること」、ウ「身近な楽器に親しみ、音色に気を付けて簡単なリズムや旋律を演奏すること」、エ「互いの楽器の音や伴奏を聴いて、音をあわせて演奏すること」、(3)イ「音を音楽にしていくことを楽しみながら、音楽の仕組みを生かし、思いをもって簡単な音楽をつくること」、B鑑賞(1)ア「曲想とその変化などを感じ取って聴くこと」、イ「音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造を理解して聴くこと」を指導内容とする。また、共通事項(1)アのうち「音色・旋律・強弱・音の重なり・拍の流れ・反復・変化・音楽の縦と横の関係」を指導内容の中心とする。

楽曲の特徴をつかみ、楽器の音色、パートの構成、音の重なりや響きの違いを感じ取りながら演奏した後、鑑賞の学習で役割の違うパートの音が重なり合う響きを味わい、その後の演奏活動に活かす学習を展開する。さらに、音楽づくりの活動においては、学習したことをもとに、パートの役割や楽器の特徴を生かすように思いをもって表現の仕方を工夫する児童を目指している。

### 3 題材の指導構想

#### (1) 児童について

児童は、5年生の題材で、歌声や楽器が重なり合ういろいろな響きの特徴や違いを感じ取りながら、思いや意図をもって表現したり想像豊かに聴いたりする学習をしてきた。また、音の特徴や音色の違いを生かして、全体の響きのバランスに気を付けながら、音の組合せを工夫して演奏することも学習してきている。

表現の歌唱の学習では、重なり合う響きを感じ取りながら二部合唱をし、和声的な旋律の美しさを実感することができた。器楽の学習では、各パートの特徴をつかみ、クラス全体で合奏をすることができた。鑑賞の学習では、吹奏楽と弦楽合奏の曲を比べながら聴き、それぞれの曲の響きの特徴を味わいながら学習してきている。

以上のように、響きについての学習を行ってはいるが、歌唱についてそれぞれのパートのバランスを考えて歌うことや、器楽合奏のパートの特性を生かした表現には至っていない。また、オーケストラの響きについての学習を本格的に行うのは、初めてである。

児童は、意欲をもって聴き取ったり感じ取ったりする活動はするが、自信をもって表現することができない様子も見られるため、音楽的に深まらないでしまうこともある。

#### (2) 題材について

本題材では、次の教材を通して、全体の響きを味わって演奏したり、楽器の組み合わせから生まれる響きの美しさを味わって聴いたりする学習を行う。

- ・「ラバーズ コンチェルト」(デニーランデル サンデーリンザー作曲 石桁冬樹編曲)
- ・「メヌエット」(クリスティアン ペツォルト作曲)
- ・管弦楽組曲「惑星」から「木星」(グスターヴ ホルスト作曲)

「ラバーズ コンチェルト」は、クリスティアン ペツォルト作曲の「メヌエット」をデニーランデルとサンデーリンザーがジャズ風にアレンジしたものである。1、2段目の旋律を反復、変化させた構成になっているため、楽曲全体の構成を生かして、美しい響きになるように、主な旋律を生かしながら楽器の組み合わせを工夫して演奏することができる。

「木星」は、ア (①4分の2拍子 ②4分の2拍子 ③4分の3拍子) →イ (ゆったりとした

4分の3拍子)→ア(①②③)→終わりの部分(コーダ)という三部形式である。アの3つの旋律は、ホルンが中心となって奏でられており、全体的に華やかな印象である。また、イでは、弦楽器が中心となって、主な旋律が繰り返し演奏されており、繰り返されながら楽器が増えていくことで、重厚で豊かな響きに変化していく。また、始めのアと2回目のアとの印象の違いや、終わりの部分にイの旋律が再現されていることなど、それぞれの部分の特徴がとらえやすく構成されている。それぞれの部分の特徴を通して鑑賞することで、異なる様々な楽器が重なり合うことで生まれるオーケストラの豊かな響きを味わって聴くことができる。

### (3) 指導にあたって

本題材では、役割の異なるパートの音が重なり合う響きを感じ取って、楽器の特徴を生かした合奏や音楽づくりをしたり、オーケストラの様々な楽器の組合せから生まれる響きの美しさを味わったりしていく。そのために、表現領域と鑑賞領域を交互に行い、それぞれの領域で学んだことを関連付けながら学習を展開していく。また、単位時間内でも、鑑賞活動と表現活動を音色、旋律、強弱、音の重なり、拍の流れ、反復、変化、音楽の縦と横の関係といった音楽的要素をもとにしながら交互に行い、それぞれを関連付けながら学習を進め、音楽の面白さやよさ、美しさを実感することができるようにしていく。そこで、自己と「事象」とのつながりに関わる手立てとして、題材における表現領域と鑑賞領域を意図的に構成することで、児童が楽器の音が重なり合う響きの魅力を実感できるようにしていく。

本題材では、まず、表現領域を位置付け、パートの構成、音の重なりや響きの特徴をつかみ、確かめ合って演奏する活動を行う。次に、鑑賞領域を設定し、オーケストラの豊かな響きに変化していくよさや面白さ・美しさを味わっていく。さらに、次の表現領域で、前時までの鑑賞領域で学んだ音色、旋律、強弱、音の重なり、拍の流れ、反復、変化、音楽の縦と横の関係といった音楽的要素による響きの特徴を生かして、第1次で学習した合奏の表現を工夫する活動を行う。最後に、音楽づくりの活動を通して、楽器の音色やその組み合わせによる響きを生かしながら、反復や変化、音楽の縦と横の関係を使ってリズムアンサンブルをつくる活動を行う。このように、表現領域と鑑賞領域を交互に学習し、それぞれの楽曲と関連付けることによって、オーケストラの響きの美しさを実感をともなって学習していくことができる。

自己と「友達」とのつながりに関わる手立てとして、それぞれの楽曲の特徴を音楽的要素をもとにして考え、友達と話し合い、分類して整理する活動を取り入れる。鑑賞領域では、「木星」のイの部分の反復による変化やアとイの部分の違いを友達と分類し、整理した特徴について口ずさんだり旋律線をたどったりするなどして交流し、それぞれの特徴について共有するようにする。表現領域では、鑑賞領域で学んだことを生かしながら、第1次で合奏した「ラバーズ コンチェルト」を再度取り上げ、表現を工夫して合奏する活動をしていく。旋律のくり返しの時に楽器の数を増やして強調したり、違う楽器にして音色を変えたりする。また、パートごとに楽器を変えてそれぞれの楽器の音色を生かして音の重なりを工夫し、豊かな響きを生み出していく。そして、音楽づくりでは、友達と話し合いながらアンサンブルをつくり、音楽への理解を深めていく。また、どちらの領域においても、鑑賞と表現の両方の活動を相互に往復させながら、音楽的価値を追究していく。

自己と「未来」とのつながりに関わる手立てとして、友達と共有した音楽的価値について振り返る場を設定する。教師は、児童の発言や記述などの音楽表現について価値付けを行い、学びを実感することにつなげるようにする。この振り返りによって、「また演奏したい」「もっと知りたい」、そして「このような方法でこんなふう演奏したい」というような思いを高めていくようにする。

## 4 題材の目標と評価規準

### (1) 目標

- ・ 楽器の響きに興味・関心をもち、演奏したり聴いたりする学習に主体的に取り組もうとする。

【音楽への関心・意欲・態度】

・ 音色・強弱・音の重なり・反復・変化・音楽の縦と横の関係などの聴き取ったことを、合奏や音楽づくりに生かせるように表現を工夫する。 【音楽表現の創意工夫】

・ 楽器の音色に気を付け、それらが重なり合う響きを聴き合いながら楽器の特徴を生かして演奏したり音楽づくりをしたりする。 【音楽表現の技能】

・ 楽器の音色，旋律，強弱，音の重なり，拍の流れ，反復や変化，音楽の縦と横の関係を聴き取り，それらの働きから生まれるよさや面白さ，美しさを感じ取り，オーケストラの響きを味わって聴く。 【鑑賞の能力】

(2) 評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
<p>① 楽器の響きに興味・関心をもち、範奏を聴いて演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	<p>① 楽器の音色や旋律の特徴を聴き取り，その重なり合いによって生まれる響きのよさを感じ取りながら，パートの役割を生かした表現を工夫している。</p> <p>② 楽器の音色や重なりを聴き取り，その組み合わせによる響きのよさや面白さを感じ取りながら，反復，問いと答え，変化，音楽の縦と横の関係を生かしてリズムアンサンブルをつくり，どのような音楽にするか見通しをもっている。</p>	<p>① それぞれのパートの特徴を生かした演奏をしている。</p> <p>② 楽器の音色に気を付け，それが重なり合う響きを聴き合いながら，パートの役割や楽器の特徴を生かして合奏している。</p> <p>③ いろいろな音楽表現や鑑賞の学習から得た発想をもとに，楽器の特徴を生かしたリズムを作り，反復，問いと答え，変化，音楽の縦と横の関係を生かして，リズムアンサンブルをつくっている。</p>	<p>① 楽器の音色，旋律，強弱，音の重なり，拍の流れ，反復や変化などの音楽の縦と横の関係の特徴から曲の構造を聴き取り，それらの働きから生まれるよさや面白さを感じ取り，オーケストラの豊かな響きのよさを理解して聴いている。</p> <p>② 曲想とその変化などの特徴と，楽器の音色，旋律，強弱，音の重なり，拍の流れ，反復や変化，音楽の縦と横の関係の関わり合いから感じ取ったことを言葉で表すなどして，楽曲の特徴やオーケストラの豊かな響きのよさを味わって聴いている。</p>

(3) 指導と評価の計画（9時間 本時4／9時間）

○ねらい・学習活動・学習内容		◇評価規準（評価方法）
第一次（出会う） パートの役割や楽器の特徴を生かして合奏する。		
1	○ 「ラバーズ コンチェルト」の楽曲の特徴をつかみ、題材のねらいを知る。 ・ 「メヌエット」と「ラバーズ コンチェルト」を比べて聴き、感じたことを話し合う。 ・ 「ラバーズ コンチェルト」の主旋律を演奏する。	◇ 楽器の響きに興味・関心をもち、範唱を聴いて演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。 【関一①】（発表、練習の様子）
2 3	○ その他のパートを練習して合奏し、パートの役割を知る。	◇ それぞれのパートの特徴を生かした演奏をしている。 【技一①】（演奏の様子）
第二次（つなぐ） オーケストラの響きを味わいながら聴く。		
1 本時	○ 「木星」の旋律の反復や変化、音色の特徴などから楽曲の構造に気付いて聴く。 ・ イの部分聴いて、主な旋律が音色、強弱、音の重なりを変化させながら繰り返し演奏されていることに気付く。 ・ イの部分が全体の中でどのような位置付けになっているのかを確かめながら全曲を聴き、三部形式の構成になっていることに気付く。	◇ 楽器の音色、強弱、旋律、音の重なり、拍の流れ、反復や変化、音楽の縦と横の関係の特徴から曲の構造を聴き取り、それらの働きから生まれるよさや面白さを感じ取り、オーケストラの豊かな響きのよさを理解して聴いている。 【鑑一①】 （発言、活動の様子、ノート）
2	○ 「木星」の曲想の移り変わり、オーケストラの豊かな響きが変化していくよさや面白さ、美しさを味わって聴く。 ・ 全体を通して聴きながら、もう一度構造を確認する。 ・ 1回目のアと2回目のアの部分の変化について話し合う。 ・ アとイの曲想の移り変わりによって「木星」が構成されていることで、曲がより魅力的になっていることについて話し合う。 ・ 紹介カードに曲の魅力をまとめる。	◇ 曲想とその変化の特徴、楽器の音色、強弱、旋律、音の重なり、拍の流れ、旋律の反復や変化、音楽の縦と横の関係の関わり合いから、感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴やオーケストラの響きのよさを味わって聴いている。 【鑑一②】（紹介カード）
第三次（広げる） 鑑賞の学習を生かして合奏したり音楽づくりをしたりする。		
1	○ 鑑賞の学習を生かして「ラバーズ コンチェルト」の合奏がより魅力的になるように楽器を工夫して演奏する。 ・ それぞれのパートに合う楽器を選んだり同じフレーズでも楽器を変えて変化をさせたりして構成を工夫する。	◇ 楽器の音色や旋律の特徴を聴き取り、その重なり合いによって生まれる響きのよさを感じ取りながら、パートの役割を生かした表現を工夫している。 【創一①】（話し合いや活動の様子）
2	○ 発表会を通して、自分の演奏を振り返ったり友達の演奏のよさを見付けたりする。 ・ グループごとに発表会をする	◇ 楽器の音色に気を付け、それが重なり合う響きを聴き合いながら、パートの役割や楽器の特徴を生かして合奏している。 【技一②】（合奏の様子）

3	<p>○ 楽器の音色やその組み合わせによる響きを生かしながら、反復や変化を使って短いまとまりのあるリズムを作り、演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 楽器を選び、4分の4拍子で2小節のリズムを作る。</li> <li>・ 例にそってグループで演奏する。</li> </ul>	<p>◇ いろいろな音楽表現から得た発想をもとに、楽器の特徴を生かしたリズムをつくり、反復、問いと答え、変化、音楽の縦と横の関係を生かして、リズムアンサンブルをつくっている。</p> <p>【技③】(発表の様子)</p>
4	<p>○ グループでリズムを組み合わせるリズムアンサンブルをつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ アンサンブルを考え、練習する。</li> <li>・ グループでつくったアンサンブルをつなげて演奏する。</li> </ul>	<p>◇ 楽器の音色やリズムを聴き取り、その組み合わせによる響きのよさや面白さを感じ取りながら、反復、問いと答え、変化、音楽の縦と横の関係をj使って楽器の特徴を生かした音楽をつくり、どのような音楽にするか見通しをもっている。</p> <p>【創②】(活動の様子)</p>

#### 4 本時の指導

##### (1) 目標

- ・ 「木星」の曲の構造のよさを理解し、それを魅力ととらえて聴いている。 【鑑賞の能力】

##### (2) 評価規準

<p>おおむね満足</p> <p>楽器の音色、強弱、旋律、音の重なり、拍の流れ、旋律の反復や変化、音楽の縦と横の関係から音楽の構造を聴き取り、「木星」の魅力に気付いている。</p>	<p>努力を要する児童への支援</p> <p>友達の発言や板書を参考にして活動するように、声を掛けたり一緒に表現したりする。</p>
--	--

##### (3) 展開

段階	学習内容及び活動	指導上の留意点・支援 (◇評価)	備考
<p>出 会 う 8 分</p>	<p>1 知りたいことを明らかにする。</p> <p>(1) 平原綾香「ジュピター」を聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 聴いたことがある。</li> <li>・ テレビで流れている。</li> </ul> <p>(2) イの部分のピアノの演奏とオーケストラの演奏を比較して聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ オーケストラは、たくさんの楽器で演奏されている。</li> <li>・ オーケストラの方が、迫力がある。</li> </ul> <p>(3) 課題を確かめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平原綾香の「ジュピター」を聴くことで、みんなに親しまれているイの部分の主な旋律について関心をもつことができるようにする。</li> <li>・ ローズさむことによって、イの部分の主な旋律について印象付けるようにする。</li> <li>・ イの部分でピアノで弾いたものとオーケストラで演奏したものとの聴き比べることによって、オーケストラで演奏された原曲のもつ迫力を感じ取ることができるようにする。</li> </ul>	<p>「木星」の題名札写真</p> <p>CD</p>
<p>〈「事象」とのつながり〉</p> <p>イの部分の2種類の演奏を提示し、比較しながら聴いて感じたことを話し合う活動を構成する。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>ピアノとオーケストラの演奏を聴き比べることで、音色の異なる様々な楽器が重なり合うことで生まれるオーケストラの豊かな響きについて感じ取り、大まかな曲の構造を確かめていくという見通しをもつことができるようにする。</p>			

	「木星」の曲の魅力を感じ取ろう。		
つ な ぐ 29 分	<p>2 イの部分の特徴を聴き取る。</p> <p>(1) 音色, 強弱, 旋律, 音の重なり, 反復, 変化, 音楽の縦と横の関係に気を付けて聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主な旋律が繰り返されている。</li> <li>・ 繰り返されながら… 楽器が変わる。 だんだん強くなる。</li> </ul> <p>3 全体を通して聴く。</p> <p>(1) 曲の構成を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「ア→イ→ア→終わりの部分」の構成になっている。</li> <li>・ アの部分には… 始めに出てくるアと後に出てくるアは似ているけれど少し違う。 終わりの部分は, アとイが混ざっているようだ。</li> </ul> <p>(2) 「木星」の曲の魅力について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ イの前にアの部分があることで, イのゆったりとした部分が強調されている。</li> <li>・ 「ア→イ→ア→終わりの部分」という構成で変化をもたせていることで, それぞれの部分が引き立てられ魅力となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ イの部分が盛り上がり聴こえるのは, 同じ旋律を演奏しながら楽器が増えていくことで音が大きくなっていくこと, 音が重なることによって厚みのある音になるということなどについて, 友達と話し合ったりしながらとらえることができるようにする。</li> <li>・ バイオリンやホルンが演奏されている部分をDVDで観ることで, 編成を確かめられるようにする。</li> <li>・ 楽器を演奏するまねや指揮のまねをすることを通して, だんだん盛り上がりていく様子を感じ取れるようにする。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ イの部分は「木星」の一部であることから, 音楽がどのように進んでいくかに気を付けて鑑賞するように働きかける。</li> <li>・ イの部分と違って, アの部分は3つの違う部分からできていることにも触れておく。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 曲がアの部分だけでつくられていたらどうか, イの部分だけではどうかといった問いかけをすることにより, 「ア→イ→ア→終わりの部分」といった構造の魅力について意識が向くようにする。</li> </ul> <p>◇ 楽器の音色, 強弱, 旋律, 音の重なり, 拍の流れ, 反復や変化, 音楽の縦と横の関係から音楽の構造を聴き取り, 「木星」の魅力に気付いている。</p> <p>【鑑一①】(発言, 活動の様子, ノート)</p>	CD DVD
	<p>〈「友達」とのつながり〉</p> <p>それぞれの部分を切り取って比べながら聴いたり動作で表現したりする活動を交互に行いながら, 友達と考えを交流する場を設定する。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>比べながら聴いたり表現したりすることで, 音楽的要素の働きが生み出す響きのよさを実感し, 友達と考えを交流することでより深く感じ取ることができるようにする。</p>		

広 げ る 8 分	<p>5 学習のまとめをする。</p> <p>(1) 「木星」の「ア→イ→ア→終わりの部分」という構造の魅力について、音楽的要素に関わらせながらノートにまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>話し合いで深まった点について、板書をもとにして確かめてからノートに振り返りをまとめるようにする。</li> </ul>	ノート
	<p>〈「未来」とのつながり〉</p> <p>それぞれの部分の比較によるしくみのよさのとらえ、それらを友達と考えを交流しながら深めていったこと、友達との交流で分かったことについてノートにまとめるように促す。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>自分が聴き取ったことや感じ取ったことについて、友達と鑑賞したり表現したりしながら考えを深めていったことについてまとめることで、構造のよさを認識できるようにする。</p>		
	<p>(2) 振り返りを交流する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>振り返りの内容について価値付けを図る。</li> </ul>	